



# 広報 おだわら

No. 147

公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会 小田原支部

支部長 高杉 尚男 広報啓発委員長 劔持 敦

〒250-0011 小田原市栄町1丁目5番1号 サーパスシティ小田原101号

平成31年3月20日発行 TEL (0465) 23-3543 FAX (0465) 23-3509



「はとっぴい」



# 「平成30年度 下期講習会・新年賀詞交歓会」

研修相談副委員長

(株)相州不動産 石塚 順一

宅建協会小田原支部下期講習会・新年賀詞交歓会が平成31年1月22日に箱根湯本富士屋ホテルにおいて開催されました。

下期講習会では、高杉尚男支部長の年頭の挨拶から始まり、実務研修会の第1部では小川研修相談委員長より日常の不動産業務についての話をいただきました。

第2部では、弁護士の立川正雄先生をお招きし、賃貸・売買の様々な問題の事例をあげ、解説いただき、来年予定されている民法改正についても取り上げ、今後の不動産取引に役立つ貴重なお話を聞くことができました。

新年賀詞交歓会では、会員の他にも、坂本久全宅連会長をはじめ、衆議院議員、県西地域の市長・町長、県議会議員、市町議会議員、金融機関、関係団体の方々が来賓

としてお越しいただきました。

今回は100名近くの方にご出席いただき、和やかな雰囲気の中、会員間や来賓の方たちとも交流を図り、盛会のうちに幕をとじることとなりました。





# 空き家バンク連絡会

宅建協会青年部会 部会長

(株)ヤマトトータルサービス 遠藤 弘康

現在、当支部では2市8町の各行政と連携し、「県西地域空き家バンク連絡会」及び「県西地域空き家利活用促進協議会」を立ち上げ、空き家問題への対応を進めております。

その一環として、平成31年1月23日小田原市役所にて「県西地域における居住支援と空き家バンクの利活用に関する講演会」が開催されました。

まず、神奈川県宅地建物取引業協会の岡田専務に、居住支援としての「住宅セーフティネット」の利用についてお話しいただきました。制度についての問題点、解決のため官民連携の動

きが必要であること、また居住者への見守りをどのように行うかなど、様々な事例を交えて講演していただきました。

続いて、当支部の藤井副支部長より、県内各自治体の福祉事務所別住宅扶助費の資料とともに、県西地域の居住支援の状況についての説明がありました。

また、不動産業者として、現実には空き家の活用に関する相談が明らかに増えていること、居住支援を必要としているケースがどのようなものかの具体的な話もあり、官民の温度差を解消する良い機会となりました。





## 「宅建協会小田原支部青年部会 視察研修旅行」

広報啓発委員長

湘南リビングセンター(株) 剣 持 敦



2月26日、27日と昨年豪雨被害があった岡山県真備市を中心に宅建協会小田原支部青年部会で視察旅行に行つて参りました。天候は、2月と思えない程の温暖な天候でした。小田原駅から早朝の新幹線で岡山駅へ。乗り換えて倉敷駅。そして倉敷市役所へ。住宅課の課長、主幹が今回の豪雨災害の対応方法等のお話をしてくださいました。ここ数年の災害を参考に、まずは罹災証明の手続きを当日内に取得出来るようにスピーディーに行ったり、仮設住宅、一般のアパートを借上げるといふ、みなし仮設住宅を、地元の宅建協会やアパートオーナーがタッグを組み、住む所を失つた方達が困る事がないような形で行つたと言う事は素晴らしいと感じました。

その後、実際に災害のあった真備地区へ地元のローカル線に乗り皆で向かいました。

過去に災害のあった地区を視察に行つた事はありますが、やはり何とも重い空気に苛まれるのと同時に、頑張つて欲しいという気持ちになります。

まだまだ復興には時間がかかるかもしれませんが、道行く下校中の小学生達に挨拶をすると、元気に明るく大きな声で「こんにちはー！」と挨拶を返してくれました。この元気が、復興に繋がるかもしれないと感じ、本当に頑張つて欲しいという気持ちになりました。

また岡山県宅建協会の方達の粋な計らいで、地元では人気の居酒屋を用意して頂き、桃太郎と金太郎が交流を深める事が出来たのは大変良い思い出になりました。

昨年、今年の漢字に選ばれた『災』。私達が生活している2市8町でも、いつどんな災害が来るか予想も出来ません。ただ、今回の研修を糧に、普段から、シュミレーションを試みたり、避難訓練を行つたり、民間と行政がどんな形で組めるのか考えていく事が必要だと強く感じました。





# 青年部会活動報告

宅建協会青年部会 部会長

(株)ヤマトトータルサービス 遠藤 弘 康

本年度も青年部会は下記の活動を通し、知見を広げ、レベルアップ及び部会員の交流を行っております。

平成30年8月7日 本年度の初めとして、連絡会を栄町の『馬かもん』にて開催。本年度の事業計画を決定しました。また部会員どうしの顔見せとなり、仕事・プライベートの良いつながりを作ることが出来ました。

平成30年11月28日 2市8町の様々な組織の青年部の集いである「J-NET」にて、講演会『暴れ川と生きる』が行われ、三保ダムの構造や酒匂川水系における治水について学びました。

平成30年12月4日 小田原競輪場を視察。身近な施設でありながら、部会員も入場した経験

のある者は少なく、新しい経験として良い機会となりました。また廃止に向けての動きが報道されるなか、競輪場の地域での役割、また廃止後の土地活用について、考えさせられるイベントでもありました。

平成31年1月28日 女性部会であるエトワール合同の新年会を行い、各部会員の交流を深め、新年の良いスタートとなりました。

また、平成27年より続く市営住宅への提言として、本年度は民法改正に伴う連帯保証人の問題解決のため、保証会社の利用について新たな制度の整備を小田原市とともに進めております。





## 「江の浦測候所を訪ねて」

小田原エトワール会員

瀬戸建設(株) 瀬戸 ひふ美



小田原駅から熱海方面へ東海道線で7分ほどいくと、木造の小さな駅舎の「根府川駅」がある。東海道線で唯一の無人駅でもある根府川に降り立つと「昭和にタイムスリップしたようだ」と言われるほどだ。

根府川から石橋、米神、江の浦と4つの地域を総称で「片浦地域」と地元では呼ぶ。片浦地域は日本有数の蜜柑の生産地だったこともあり今でも季節になると片浦一帯が蜜柑のオレンジ色に包まれる美しい地域だ。

その中でも真鶴に隣接し「東洋のリヴィエラ」と称される「江の浦」ここに今回私たちの視察目的地である「江の浦測候所」がある。

写真、彫刻、演劇、造園、執筆、多岐に渡りその道を極め、日本はもとより海外、の様々な分野の人が魅了される作品を生み出す「杉本博司」氏の人生をかけたと言っても過言ではない集大成が江の浦にできた「江の浦測候所」である。

「天を仰ぎ、自身の居場所を知る」それが「江の浦測候所」という名前の所以と解説を受けた記憶がある。まさに美術館という括りでは表現しきれない圧倒的なスケールだ。

私たちが視察した時にも日本はもとより海外の方も多く見られていた。小田原の人でも「江の浦」の場所を知らないほど無名なこの地に、世界中から人が江の浦を目的地として訪れるようになるとは誰も想像できなかったことだ。

それだけ「江の浦測候所」から発信される芸術の力、力強いメッセージ性、そして場所の力が大きいのだと感じる。

私たちが視察したのは2

時間弱。宙に浮かぶようなガラスの能舞台の横から海に突き出した通路から見る空と海と地平線など、非日常的な光景が眼下に広がる。そんな感動的な光景が私たち一同を何度も包んだ時間だった。

江の浦測候所は天空を測候するこの場所でもある。冬至、夏至、春分と秋分、日の出の光が通り抜け、その軸線が照らし出すそれぞれの舞台もその一つ。天空を測候するこの場所に立った時、私たちはそれぞれの原点に立ち戻る感覚や、未来を感じる感覚になるように思う。

江の浦測候所は完全予約制であるため、ふらりと行くことは残念ながら出来ないようだが、この場所を目的とし是非実際に訪れて体験して頂きたい。

